

次期学習指導要領 1枚まとめ｜高校

総合的な探究の時間 高校

小中も「総合的な探究の時間」へ。一人一人の探究を深める方向

10秒でいうと　名称は現行どおり。自分の在り方生き方に関わる「マイ探究」を自分で進められる姿を目指す

高校の「総合的な探究の時間」は、名前は今のままです。標準単位数は、新しい単位の数え方で6～12とする案です（今は3～6単位）。高校段階では、自分の在り方生き方に関わる「マイ探究」を、自分で進められるようになることを目指すとされています。また、高校の道徳教育で在り方生き方を考える中心的な場面に、総合を加える方向です。

1 自分で進める「マイ探究」をめざす

高校段階で、自分の在り方生き方に関わる「マイ探究」を自律的に進められるようになることを目指すとされています。そのためには、小中から「テーマ探究」と「マイ探究」の両方を経験することが大切です。先生が任せきりにせず、見取りや形成的な評価で関わる役割も解説で示す方向です。P323

授業では たとえば1年でテーマ探究の進め方を学び、2・3年で一人一人が自分の問いを立てて探究するという3年間の流れが考えられます。

2 在り方生き方を考える「中核的な指導の場面」に

高校の道徳教育では、公民科（公共、倫理）と特別活動が、人間としての在り方生き方を考える中心的な場面とされています。ここに総合を新しく加える方向です。ただし、総合の中で道徳教育のための時間を別にとる必要はないとされています。P305

授業では たとえば探究の振り返りで、「この探究を通して自分は何を大切にしたいと思ったか」を書く時間を設けることが考えられます。

3 卒業前の「節目としての探究」

最終学年などで「節目としての探究」を位置付けることが望ましいとされています。学習の成果や自分の変化を実感するための探究です。卒業研究のようなものです。ただし、細かな条件を国が決めることはしない方向です。P325

授業では たとえば3年生で、それまでの探究を論文や発表にまとめ、後輩や地域の人に聞いてもらう場をつくることが考えられます。

4 総合は教育課程の「出島」

総合は学校の裁量が大きく、教科の壁や、学校と社会の壁をこえる「出島」のような役割が期待されています。地域の人や団体、企業などと連携し、質の高い探究を進める方向です。外部の人の関わり方や、つなぎ役の体制についての考え方も示すとされています。P320 P338

授業では たとえば地域の企業や大学に協力を頼み、生徒の問いに合わせて専門家から助言をもらえる仕組みを作ることが考えられます。

ほかにも変わること（高校）

- 学校行事を総合で代わりに行えるかのルールを明確にする方向 P336
- クラス共通の「テーマ探究」と一人一人の「マイ探究」を組み合わせる P322 P323
- 成果を「外化」する機会と、「節目としての探究」 P323 P325
- 全体計画・評価をシンプルにし、目標は学校の「基本的な方針」とも結ぶ P333 P334 P335
- 探究のとらえ方を整理し、「研究系・行動系・創作系」を示す方向 P321 P324 P325
- 情報技術を積極的に使い、AIは「偽の熟達」に注意 P328 P330
- 各教科・道徳・特別活動との役割分担を整理する P320 P325 P326 P327 P337
- 「社会との連携」を進める（総合は教育課程の「出島」） P335 P338 P339 P340 P342

原田英語.com 次期学習指導要領ナビ｜https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/｜2026年11月4日 版

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。出典：審議まとめ（2026年10月5日）。告示前の方向性です。